

令和3年度(2021～2022) 事業報告

令和3年4月1日 ～令和4年3月31日

1. アイメイトの育成訓練及び研究開発

(イ)【候補犬の訓練】

	訓練内容	適要
1 ヵ 月	性格・素質判定と健康管理	◇性格並びに素質を観察 ◇健康診断の後、健康上問題のない適性犬は、避妊或いは去勢手術・各種ワクチンを接種。
4 ～ 5 ヵ 月	基礎訓練	アイメイトとして必要な課目を教え、服従心と学習への態度の基礎を作る。
	誘導訓練	ハーネスを付け盲人の歩行時の、障害となるもの、又は危険な物を告知し、或は回避する訓練
	仕上げ及びテスト	指導員が目隠しをして、訓練の完全度をテストする。
4 週 間	歩行指導	アイメイト使用を希望する視覚障害者4名1クラスを原則に、宿泊により指導する。

(ロ)【種犬の充実と候補犬の質の向上】

候補犬の資質がアイメイトの実績に大きく関わるので、繁殖犬の選定・組み合わせを考慮した。

出産の数・時期等は人為的にコントロールできないので、種牡・台牝の補充を常に念頭に置き、優秀と思われる犬がいる際には購入に努めた。

2. アイメイトによる盲人の歩行指導並びに日常生活指導

(イ)【調査】

アイメイト使用希望者に対しては、アイメイトによる歩行指導の可否を判断するため面接調査を実施する。また、使用希望者の質疑に答えたり、実際にアイメイトとの歩行体験をさせたりする事により、安心感を持たせることに努めた。

ペットではないことを理解し、共生して生活することが可能な人であるかを判定した。最終的には、アイメイトを使用することにより『積極的に社会参加を目指す意欲』があることを重要ポイントとして調査した。

(ロ) 【歩行指導実施結果】

回数	期	卒業人数	期 間
1	479	1	' 21. 03. 27 ~ ' 21. 04. 24
2	480	4	' 21. 05. 01 ~ ' 21. 05. 29
3	481	4	' 21. 06. 05 ~ ' 21. 07. 03
4	482	2	' 21. 09. 11 ~ ' 21. 10. 09
5	483	2	' 21. 10. 16 ~ ' 21. 11. 13
6	484	4	' 22. 01. 08 ~ ' 22. 02. 05
7	485	1	' 22. 02. 12 ~ ' 22. 03. 12
計		1 8	

(ハ) 【歩行指導内容】

入 校（土曜日）		
視覚障害者への 歩行指導	盲人の歩行状態テスト 性 格 観 察	チェーンカラー・引き紐・ハーネスの扱い方、 指導員によるハーネス歩行
	ペ ア 決 定	
	各人の犬を決定し、パート ナーを作るが犬と人の性 格の一致が重要である。	指示語、誉め方・叱り方と意義・ハーネスの付け方 等
	歩行指導（土曜日から4週間）	
講 義 内 容	歩行指導開始、各週毎に定められ たコースを歩く 第一週： 毎日1.7 ～ 3.2km 第二週： 〃 2.1 ～ 4.2km 第三週： 〃 3.4 ～ 6.8km 第四週： 〃 4.8 ～ 9.6km 全体で約120kmの行程をマスターす る。 各週末にテストを行い、進捗状 況をチェックする。	歩き方の基本及び姿勢、コーナーの練習、 服従、分岐点、人車道の区別、 歩道橋、信号判断の方法、人車道の区別の ない道の歩行、ガードレール内の歩行、繁華 街、レストラン、エスカレーター、エレベ ーター、踏切、電車や自動車の利用法、排便の 始末、犬のシャンプー、ブラッシング、犬の 餌の作り方、体重測定 等
	犬の管理及び衛生	飼料/内容・作り方・与え方 等 手入れ法/ブラッシング・シャンプー・耳掃除等・犬の歯磨き 等 犬の管理/ 正常、異常の区別、体重測定、投薬、検温、便の始末 等
	アイテムの使用法	アイテムの歴史・訓練・指示語・犬の心理及び表情 等。 社会との対応の仕方・アイテムを使う側のマナー
上記の他にこの期間中、健常者と変わらない状態で生活するように(夜間の点燈、スマートな食事の方法等)指導する。		

卒業実績 1400 組以上

(二) 【フォロー・アップ・サービス】

アイメイトによる歩行指導は、視覚障害者の自立と生活の向上が最終目標である。

卒業生の歩行問題・環境・その他についての質問は、本人から協会へ直接連絡してくる様に指導している。

その質問内容によっては遠近に関わらず訪問指導を行い、卒業生の目としてアイメイトが十分に機能することを目指してフォローアップを実施した。

3. 生活に関する各種相談及び歩行指導員の養成

(イ) 各種相談

使用者のあらゆる相談にも応じ、様々の指導をした。

使用者の犬具の整備、アイメイトの飼育・歩行及び管理に就いての相談や指導、本人の病気など特別な事情の場合の犬の預かり、止むを得ぬ事由の返還犬の飼育、死亡犬の供養、使用者の就職、結婚或いは離婚、住宅問題、公共施設の利用・宿泊問題 等にも誠意を以て対応した。

(ロ) 指導員の養成

歩行指導員は現在2名である。

既存研修生は7名の内、1名が4名の歩行指導を連続して2回終了し、2022年度より歩行指導員となる。また、2名は複数回の歩行指導を経験し、1名が初めての歩行指導を行った。

「犬」を主体と考える風潮の中、視覚障害者への意識も含め、対人教育であるという哲学を主軸に考え、社会人としても視野の広い歩行指導員の養成を目指した。

4. アイメイトに関する啓発

(イ) 【啓 発】

アイメイトを使用する環境の整備と向上の為に、一般社会への啓発運動としての見学日はコロナ感染予防措置として開催できなかった。そのため、新たな施策としてZoomを利用したオンラインでの啓発イベントを夏季、冬季に計3回実施した。

企業からの依頼や学校・社協・ロータリークラブ、ライオンズクラブ、ガールスカウト、ボーイスカウト等の要請などについては、感染防止対策を実施しながら可能な限り対応した。マスコミ・出版関係に協力したがコロナ禍の影響で回数は希少であった。

(ロ) 【広報活動】

機関誌『アイメイト 52号』の発刊は、コロナ禍により取材ができないため発刊を見送った。協会HP並びにFacebookを利用しての広報活動を通じて、アイメイトへの理解者及び協力者の拡充を図るように努力した。

2020年度公開の『アイメイトこどもサイト』では、コロナ禍でのアイメイト使用者の生活を

インタビューを通じて紹介する特別コンテンツを作成した。

(ハ) 【アイメイト・デー】

第44回 アイメイト・デーはコロナ感染予防措置で開催を見送った。

(ニ) 【あゆみ展】

5/15(土)・16(日)に練馬区Coconeriホールにて展示イベント『盲導犬(アイメイト)って知ってる—練馬から日本を変えたパイオニアの物語—』を開催した。感染防止対策を行いながらの実施となったが、約300名が来場した。

5. その他、目的達成に必要な諸事業

(イ) 【当協会の同窓会・後援会・飼育奉仕・繁殖奉仕者・サポート会の充実】

卒業生の集まりである同窓会は総会・レクレーション・CD通信ひろば(年4回)等を企画した。コロナ禍のため、限られた実施の中、ひろば発刊やオンラインレクリエーションへの協力を行った。

後援会もミニ通信発行やリモート会議以外の活動はできず、チャリティー・グッズの頒布もネット注文以外は殆ど活動できなかった。

飼育奉仕家庭(リタイア犬飼育を含む)及び繁殖奉仕家庭は、陰の力として大きな支えとなっている。飼育奉仕段階での問題にも積極的に機会を捉えて相談に乗ったり、フォローすると共に、繁殖奉仕者・飼育奉仕者及びリタイア犬の飼育者へ感謝の意を伝えるようにした。

アイメイト協会は各協力者の方々と緊密な縦横の連繋を取りながら、アイメイトの総合的な発展及び啓発活動を行ってきたが、コロナ禍のため政府・自治体のガイドライン等を確認しながらの実施となった。

(ロ) 【海外の盲導犬育成施設との交流】

シーイングアイ訓練部長とはコンタクトを維持しているが、直接の交流は渡航に関する制限等を考慮し見送った。